

事務事業名	北関東道を活用した地域活性化に関する地域ワーキング参画事業				担当	総務部 企画課 企画調整係	
政策名	E	地域と産業が調和する活力あるまちづくり			電話番号	0285-83-8102	
施策名	04	観光の振興			<input type="checkbox"/> 実施計画上の主要事業		
基本事業名					事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ	
法令根拠						<input type="checkbox"/> 単年度繰返（開始年度 平成20 年度～）	
予算科目	1.一般会計	2.総務費	1総務管理費	6企画費	<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度（ 年度～ 年度）		
事業概要	北関東自動車道を活用した地域活性化に関する地域ワーキングは、整備が進む北関東自動車道について、利用促進を図り沿線の振興に結び付けられるよう情報発信やイベント等を効率的に行っていくために、関係者の連携を図る手段として設置されたものである。真岡市は、この趣旨に賛同し設立時から本ワーキングに参加している。このワーキングは、ネクスコ東日本が中心となり、栃木県及び県内6市3町（宇都宮市・足利市・栃木市・佐野市・真岡市・下野市・上三川町・壬生町・岩舟町）が参加している。						

1. 現状把握の部 (1) 事務事業の目的と指標

①手段（主な活動） 22年度実績 会議への参加 ドライブマップ作成の支援 海山交流フェア（真岡市大産業祭の中で実施）への参加団体とりまとめ 23年度計画 会議への参加 ドライブマップ作成の支援 イベント参加		⑤活動指標（事務事業の活動量を表す指標）の推移 名称 単位 19年度(実績) 20年度(実績) 21年度(実績) 22年度(実績) 23年度(見込) ア 会議への参加 回 1 1 1 1 イ ドライブマップ配布部数（真岡市分） 部 700 900 500 500 ウ イベント参加 回 2 1 1 1 エ オ						
②対象（誰、何を対象にしているのか）*人や自然資源等 北関東自動車道を活用した地域活性化に関する地域ワーキング		⑥対象指標（対象の大きさを表す指標）の推移 名称 単位 19年度(実績) 20年度(実績) 21年度(実績) 22年度(実績) 23年度(見込) ア 地域ワーキングメンバー 団体 13 12 11 11 イ ウ エ オ						
③意図（この事業によって、対象をどう変えるのか） 地域ワーキングが行う事業が円滑に進むよう支援し、北関東自動車道の利用促進を図る		⑦成果指標（対象における意図された対象の程度）の推移 名称 単位 19年度(実績) 20年度(実績) 21年度(実績) 22年度(実績) 23年度(見込) ア 北関東自動車道交通量(日) イ (宇都宮上三川IC～真岡IC) 台 4,157 13,600 14,932 ウ (真岡IC～桜川筑西IC) 台 5,500 12,838 エ オ						
④結果（どんな結果(上位施策)に結びつけるのか） 交流人口を増やす		⑧上位成果指標（結果の達成度を表す指標）の推移 名称 単位 19年度(実績) 20年度(実績) 21年度(実績) 22年度(実績) 23年度(見込) ア 観光客入り込み客数 人 1,936,456 2,784,799 2,806,703 2,900,000 イ ウ エ オ						
(2) 総事業費の推移		単位	19年度(実績)	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(見込)	
投入量	事業費	財源内訳	千円	0	0	0	0	
		国庫支出金	千円	0	0	0	0	
		県支出金	千円	0	0	0	0	
		地方債	千円	0	0	0	0	
		その他	千円	0	0	0	0	
	一般財源	千円	0	0	0	0		
	事業費計(A)	千円	0	0	0	0		
	人件費	正規職員従事人数	人	1	1	1	1	
		延べ業務時間	時間	40	50	40	40	
		人件費計(B)	千円	168	209	162	171	
トータルコスト(A)+(B)		千円	168	209	162	171		

(3) 事務事業の環境変化・市民意見等

①この事務事業を開始したきっかけは何か？ いつごろどんな経緯で開始されたのか？	栃木県から働きかけがあり参加した。
②事務事業を取り巻く状況（対象者や根拠法令等）はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？	平成20年3月15日に宇都宮上三川ICから真岡IC区間が開通、平成20年12月20日に真岡ICから桜川筑西IC間が開通し、北関東自動車道と東北自動車道が直結された。平成23年3月19日に全線開通となった。
③この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者等）からどんな意見や要望が寄せられているか？	

2. 1次評価の部 *原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 ・この事務事業の目的は、市の政策体系に結びつくか？ ・意図することが結果(上位施策)に結びついているか？	<input type="checkbox"/> 結びついている <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 北関東自動車道の利用促進を図ることは観光や商業の振興に結びつく
	②公共関与の妥当性 ・なぜこの事務事業を市が行わなければならないのか？ ・税金を投入して達成する目的か？	<input type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 市が北関東自動車道の利用促進を図ることは妥当である
	③対象と意図の妥当性 ・対象を限定・追加すべきか？ ・意図を限定・拡充すべきか？	<input type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある <input type="checkbox"/> 意図を見直す必要がある 地域ワーキングで連携を図りながら利用促進を図るものであり、対象意図は適切である。
有効性 評価	④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるか？ ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか？ ・何が原因で成果向上が期待できないのか？	<input type="checkbox"/> 向上余地はない <input type="checkbox"/> 向上余地がある 地域ワーキングが企画するイベント等に積極的に参加している。
	⑤廃止・休止の成果への影響 ・事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	<input type="checkbox"/> 影響がある <input type="checkbox"/> 影響がない 利用促進を働きかける機会が減る
	⑥類似事業との統合や連携の可能性 ・他に、類似の形態の事務事業はないか？	<input type="checkbox"/> 類似事業がある(類似の事務事業名を記載) <input type="checkbox"/> 類似事業はない
	・類似事業がある場合、その事業と統合したり連携を図ることができるか？	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携ができる <input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携できない
効率性 評価	⑦事業費の削減余地 ・成果を下げずに事業費を削減できないか？ (仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 事業費はない。
	⑧人件費(延べ業務時間)の削減余地 ・やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？ ・成果を下げずに正社員以外の職員や委託でできないか (アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 会議への参加、ドライブマップへの情報提供にかかる人件費であり削減できない。
公平性 評価	⑨受益機会・費用負担の適正化余地 ・事業の内容が一部の受益者に偏って不公平ではないか？ ・受益者負担が公正・公平になっているか？	<input type="checkbox"/> 公正・公平である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 北関東自動車道の利用促進を図ることは本市の振興に結びつく

3. 改革・改善方向の部

(1) 改革の方向性(改革案・実行計画) <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 見直し(<input type="checkbox"/> : 目的妥当性 <input type="checkbox"/> : 有効性 <input type="checkbox"/> : 効率性 <input type="checkbox"/> : 公平性) <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 継続	(3) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 改革、改善を実現する上で克服すべき課題は何か？それをどう克服していくか？																								

4. 事務事業の2次評価結果(事業の総括と事業の方向性)

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 <input type="checkbox"/> 記述説明不足(説明責任不充分) <input type="checkbox"/> 評価内容が客観性を欠く <input type="checkbox"/> 評価内容は客観的と言える	(5) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
			削減	維持	増加																			
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 2次評価者としての評価結果 ①目的妥当性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり																								
(3) 2次評価者として判断した今後の事業の方向性 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的絞込み <input type="checkbox"/> 目的拡充 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 予算増大 <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	(4) その他2次評価会議で指摘された事項																							